

わ げ ん あ い ご
和 顔 愛 語

vol,39



ザンビアから真生会へ！ ～4度の交流で深まる絆～



みんなが幸せになる医療の担い手を育てる 総合診療専門研修プログラム



災害に強いまちづくり 大規模災害シンポジウムで考える地域の連携



発熱外来 新施設オープン



ザンビアから真生会へ！

～4度の交流で深まる 国境を超えた医療者の絆～

ザンビア医療の課題解決へ 研修の目的と背景

令和5年（2023年）1月から令和7年（2025年）1月までに計4回、アフリカ南部にあるザンビア共和国（首都ルサカ）から、保健・医療関係者が当院を訪れました。その数は総勢50名近くに上ります。JICA（国際協力機構）による「ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト」の一環で、現地で経営・運営を指導する日本人メンバーとの間に交流があったことから、当院が研修先の一つに選ばれました。

初回来院したのは保健局の局長や、同プロジェクト対象の5病院の院長など10数名。マネジメントシステムを中心とした講義では、当院の理念、目標管理、人事管理、患者満足システム、原価計算システム、地域連携システムなどを発表しました。参加した院長が「ぜひスタッフにも学ばせたい」と、その後の3度の研修には、看護部門、薬剤部門、事務部門など、多職種の責任者が参

加されました。プロジェクトの対象5病院（チャワマ、カニヤマ、チレンジェ、マテロ、チパタ）は、外来患者数や病床数において当院と共通点があります。

ザンビアでは病院数の不足や、運営管理・提供サービスの質が課題となっています。基礎的な手術や検査を行う一次レベルの病院が不足し、高度な医療サービスを提供すべきトップレベルの病院が一次レベル病院の役割も果たしている現状があります。トップレベルの病院は混雑が



マネジメントの講義

激しく、高度な医療サービスの円滑な提供が困難になっています。この状況を改善し、ルサカ郡の保健サービス向上を目指すプロジェクトです。

世界共通の「医療を行う心」

真鍋恭弘院長は冒頭のあいさつで、真生会では医療を行うときの「心」を一番大切にしていると話しました。医療法人真生会は理念に「仏法に説かれている「自利利他」の精神に基づいて、安心と満足の医療をめざします」と掲げています。「自利利他」とは、他人を幸せにすることが、そのまま自分の幸せになるという意味です。真生会職員は生命の重さを心から尊重し、患者さん、ご家族に寄り添い、共感し、サポートに努めています。職員が理念を深く理解し実行すれば、患者さん、職員の幸せにつながっていく。ザンビアの皆さんはそんな自利利他の精神が人事制度などのマネジメントシステムや現場の業務にも表れていることを感じ、「自利利他の精神を病院の

戦略に組み込んで表現していきたい」と述べられていました。また、帰国後は「Jiri Rita Spirit（自利利他の精神）！」というフレーズがスタッフ間で交わされるようになったそうです。



第1回視察団のリーダーで、ルサカ州の保健局長ドクター・ムワレ氏（写真右）へ記念品を贈呈する真鍋恭弘院長

ザンビアに 「フロアマネジャー」誕生

真生会の特色の一つである「フロアマネジャー」は、患者の受診サポートを専門に行うスタッフです。研修では、夕方外来の受付開始



患者さんの案内をするザンビアのフロアマネジャー（写真左）
※国際協力機構 発行ニュースレター『Cassiopeia Nkani』より

を待つ50名近くの患者さんをフロアマネジャーが案内、誘導する様子を見学していただきました。ザンビアでも患者数が多く、長い行列ができることもあるそうですが、「患者さんにていねいな対応ができていなかった」と振り返っておられました。チパタ病院では、帰国後すぐにザンビアの環境に適したフロアマネジャーの導入が検討され、令和6年（2024年）3月から配置されました。ユニフォームであるカーキ色の半袖ジャケットの背面には、フロアマネジャーの役割を示すメッセージが刺繍されています（左の写真）。来院者に好評で、令和7年（2025年）にはマテロ病院でもフロアマネジャー導入が計画されています。

参加者の感想

ザンビアの方より

・看護師が整理整頓をしているのが印象的でした。治療やケアに必要なものがすぐに使える場所に常備されていました。責任感を持ち、献身的に働く姿に感銘を受けました。看護師と薬剤師の連携もぜひ自国に持ち帰って手本にしたいです。

・医療従事者が心から業務に勤しむ姿勢を強化していくことが課題だと感じています。真生会では患者さんと接するときに目線を合わせて話をしていました。初めて見た光景でした。笑顔はすごいパワーがあることをみんなに伝えたいと思います。今からワクワクしています。



真生会職員より



・初回の訪問では院長ら最高責任者が「自利利他の精神」をどこまで受け止められただろうと気がかりでしたが、その後も視察先に選ばれ、大きなやりがいを感じました。我々にも深い学びの機会となり、今後も交流を続けたいと思います。（法人事務局 事務長 吉田充寿）



・施設と診療材料の管理について発表しました。最初は歴史や文化、環境、制度の違いに戸惑いましたが、熱心な質問に感化され、前向きな気持ちに変わりました。純粋に学ぼうとする姿勢に、私自身もそうありたいと強く感じました。（管理部 部長 松田雅樹）



・研修の機会を2度いただきました。薬剤師の皆さんの質問を通じて各行為の目的や意義を再認識し、初心を振り返る機会にもなりました。「患者さんのために何ができるか」という思いを共有でき、大変有意義でした。（薬剤科 科長 後藤敦史）



・感染管理の講義、病棟見学では、たくさんの質問を受けました。感染対策に関する体制、環境づくりでは国の違いはありますが、課題は共通していると感じます。今回は大変貴重な、視野を広げる経験ができました。（感染対策室 副室長 感染管理認定看護師 梅田加洋子）

みんなが幸せになる医療の担い手を育てる

総合診療専門研修プログラムが始まりました

プログラム責任者 佐々木 彰一

古い、病気、死に向かう苦しみは避けがたいです。

それらの苦しみに向き合い、幸せに生き抜くよう支え導くのが、当院の総合診療医の役割です。

そのために必要な知識と技術、経験を身につけるための、研修プログラムを開始しました。総合診療医を志す、医師が対象のプログラムです。



以下のことを学びます。

●外来・病棟・在宅・救急、それぞれの部門で横断的に活躍する力を身につける

●「聞く力」を身につける

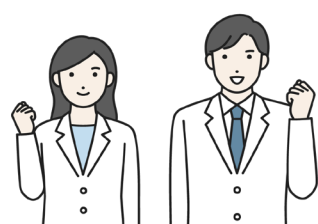
患者さんは何らかの苦しみを抱え、その解消を目指して病院に来院されます。その苦しみの原因を正しく知り、解決に導くには、「聞く力」が大切です。

●研究・発表を实践する力をつける

日々の診療の中で、未だ解決していない課題に、専門家は直面します。その課題を研究し、解決の道を創り上げるのが、新たな笑顔を生み出すこととなります。

地域の皆さんと共に、自利利他の道を往く、総合診療医を育てたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

いみず総合診療専門研修プログラム
ホームページはこちらからどうぞ



● 発熱外来 新施設オープン ●

これまでプレハブで臨時対応を行っていましたが、室温調整が難しく、患者さんや職員に負担をかける状況でした。天候が悪い日は屋外で対応せざるを得ず、快適な環境とは言えませんでした。また、衛生管理や動線の面でも課題があり、より適切な施設が求められていました。

1. なぜ新しい発熱外来が必要だったのか



感染対策室 室長
なかつか としき
刀塚 俊起

「感染症対策の強化と患者負担の軽減 医師の視点から」

5月末より稼働した、発熱外来を行う新施設を紹介いたします。



新しい発熱外来の外観

適切な空調管理により、二次感染のリスクを減らすことが可能になりました。感染症に対応しやすい構造となっており、新たな感染症が発生した際にも柔軟に対応できる体制を整えています。これから

3. 発熱外来の新設によって、感染症対策にどのような変化が期待できるのか

診療の流れはこれまでと変わりませんが、天候の影響を受けにくい設計のため受診時の負担軽減が期待できます。

2. 患者さんにとって、どのような利点があるか

も住民の皆さんの健康を守るために貢献していきます。

「患者と職員に優しい発熱外来 より安心できる空間へ」



管理部 部長
まつだ まさき
松田 雅樹

1. 設計で特に工夫した点は

患者さんの利便性と職員の動線を考慮し、正面玄関横に配置しました。本館との調和を意識したデザインとし、送迎車からの乗降をしやすくするため、大きめのひさしを設置。また、発熱外来から南館の間にもアーケードを設け、雨天時の移動の負担を軽減できるようにしました。

2. 職員の働く環境はどのように改善されたか



診察室（左）と待合室（右）

コロナやインフルエンザ等の風邪症状での来院は、心身ともに大変辛いことと思います。環境面で少しでもお役に立てましたら幸いです。

3. 施設管理担当者としての思いは

これまで課題となっていた室温・湿度管理が適切に調整できるようになり、職員の疲労軽減に寄与しています。また、動線を考慮した設計により、業務効率の向上やスムーズな診療が可能になりました。

災害に強いまちづくり

大規模災害シンポジウムで考える地域の連携

令和6年11月26日、院内で初めての「大規模災害シンポジウム」が職員対象に開催されました。射水市で活躍される実務者と研究者の2名をお招きし、当院職員2名を含む計4名が登壇。講演とシンポジウムを通じ、防災意識の向上が図られました。



講演 1. 末永 正尚氏 (射水平野土地改良区 業務課長)

「射水市の土地って、元々どんな所？
災害に強い？弱い？」

射水平野の排水システムやポンプ場の役割、調整池の必要性が強調され、過去の地震や豪雨時の排水の実態が具体的に示されました。住宅開発が進む中、農地の減少による水害リスクの増加にも触れ、都市計画と災害対策のバランスを取る重要性を訴えられました。



講演 2. 大橋 達子氏 (富山福祉短期大学 看護学科 特任准教授)

「東日本大震災での救護経験から得た学びと、今後の備え」

阪神淡路大震災や東日本大震災での救護活動を振り返り、現場の厳しさや医療者が直面する困難を具体的に示し、訓練こそが災害時に役立つ最大の備えと強く訴えられました。



今後も地震や風水害のリスクがあるため、医療者は常に災害への意識を持ち、連携を強化し、迅速な対応ができるように備えるべきと講演されました。

講演 3. 南 英樹氏 (真生会富山病院 看護部 主任、災害支援ナース)

「JMAT 活動を通して得られた知見と展望」

当院から派遣された JMAT（日本医師会が組織する災害医療チーム）の一員として、能登半島地震で被災したクリニックや福祉施設で医療支援を行い、褥瘡患者の対応にも従事。



限られた資源の中、水道未復旧の厳しい環境下で活動しました。被災地のニーズは変化し続けるため、柔軟な対応と保健・福祉・行政の連携が不可欠でした。

講演 4. 宮島 靖之氏 (真生会富山病院 総務企画課 課長補佐)

「震災時、氷見の病院では何か起きたのか？」

能登半島地震発生時に勤務していた氷見市の医療・介護施設では、津波警報による垂直避難、断水による水不足、食事の提供、建物の損壊など深刻な課題に直面しました。コロナの影響も重なり、職員に負担がかかりました。



震災後、BCP（事業継続計画）の見直しや避難訓練の強化、防災意識の向上により、持続的な備えの必要性が認識されました。

シンポジウム座長：梅原 康次（真生会富山病院 形成外科、JMAT 活動メンバー）

災害時の課題として、インフラの維持、水害リスクへの対応、避難行動の迅速化、給水確保、住民の防災意識向上、行政との連携の重要性が話し合われ、総合的な対策の必要性を確認できました。



診療案内

診療科

内科、外科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、形成外科、眼科、麻酔科、心療内科、精神科、神経内科、放射線科、泌尿器科、消化器内科、呼吸器内科、リハビリテーション科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、真生会デンタルクリニック（歯科）

受付・診療時間 ※令和7年5月末時点

【午前外来】平日・土曜日

受付 8:00 ~ 11:30

診察 8:50 ~（※整形外科、眼科 9:00 ~）

7:45 から整理券を配布します。

※複数科を受付される方は 11:00 までの受付です。

正面玄関は 7:45 に開きます。

【昼外来】

<水曜日のみ>

内科、消化器内科、皮膚科

<月、水、金曜日>

眼科

受付 13:30 ~ 16:00

診察 14:00 ~

13:15 から整理券を配布します。

※複数科を受付される方は 15:30 までの受付です。

【夕方外来】月、金曜日のみ

※科によっては休診日がございます。

受付 16:00 ~ 18:30

診察 16:30 ~（※整形外科、眼科 17:00 ~）

15:40 から整理券を配布します。

※複数科を受付される方は 18:00 までの受付です。

【休診日】土曜日午後、日曜日、祝日

休診時間帯は、当番医師が待機しております。

※診療日は科によって異なり、診療時間に変更する場合がございます。診察医の希望のある方は、事前にお確かめください。



最新の診療時間はホームページに掲載しております

真生会

オープンホスピタル We

7/5(土) 13:30 ~ 16:30 開催の「真生会オープンホスピタル We」。平成 30 年（2018 年）開催の「30 周年感謝の集い」以来の大型イベントです。

- ・ なりきり！お仕事体験
- ・ 秘密のバックヤードツアー
- ・ ホスピタルピアノ
- ・ スタンプラリー
- ・ キッチンカー

など、ワクワクする企画をライン

ナップしました！真生会公式

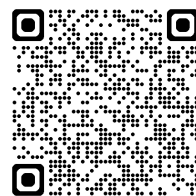
インスタグラム（下段 QR コード）で情報発信中です。



～ご協力のお願い～

真生会広報誌『和顔愛語』に関するアンケート

広報誌をお読みいただき、ありがとうございます。より良い広報誌にするため、みなさまのご意見、アイデアをお聞かせください。QR コードを読みとるとアンケートが表示されます。



編集後記

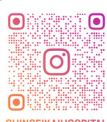
今年 4 月から 7 月に「スマイル川柳」と題して皆様から「笑顔・あいさつ」をテーマに川柳を募集したところ、温もりを感じる作品が多数寄せられました。笑顔で気持ちのあいさつがあふれる真生会を、みなさんと共につくりあげていきたいと思っています。

和顔愛語（わけんあいご）とは

和やかな笑顔と優しい言葉で人と接することです。患者さんに対して、常に優しい笑顔と言葉で接し、まず精神面からリラックスしていただくことを、スタッフ全員が願っています。



真生会公式 YouTube「真生会 We チャンネル」



真生会公式Instagram



真生会公式フェイスブック



真生会公式 X